

第21回 全国街路事業 コンクール応募資料

平成 21年2月

応募者名:東京都江戸川区

事業の名称:葛西駅地下自転車駐車場

実施都市名:東京都江戸川区

事業目的

江戸川区では、安全で快適な都市空間の実現を目指し、利用しやすい駐輪施設の整備を図り、放置自転車0(ゼロ)のまちを実現するため「総合自転車対策」に取り組んでいる。東京メトロ東西線葛西駅についても、総合自転車対策の一環として、地下駐輪場の整備を実施した。駅至近の駅前広場空間を活用することにより、利便性と利用効率の高い駐輪場を目指すとともに、地域拠点にふさわしい駅広場の再構築を行う。

事業概要

事業名: 葛西駅地下自転車駐車場整備事業

路線名: 葛西駅地下自転車駐車場

事業箇所: 江戸川区中葛西五丁目、東葛西六丁目

形式: 地下一層機械式併用自走式

面積: 5,600㎡(東口2,700㎡、西口2,900㎡)

収容台数: 9,400台(東口4,900台、西口4,500台)

機械式 6,480台 第36基×180台/基(東口21基、西口15基)

自走式 2,920台 二段式ラック等

出入口: 斜路付階段(オートスロープ付)東西各3箇所 計6箇所

総事業費: 66.4億円

事業期間: 平成16年～平成19年度

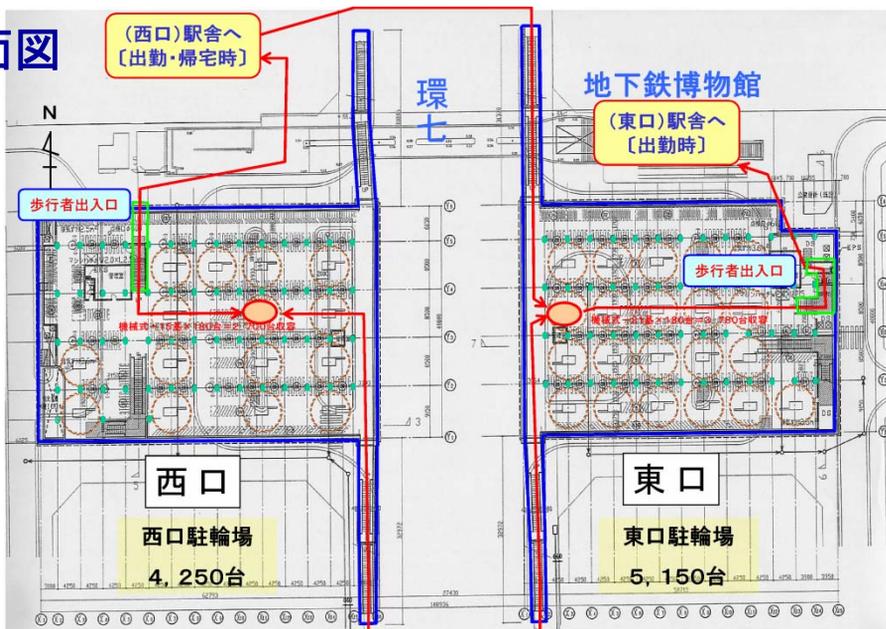
本事業は、当初、葛西駅南口の東西広場及び環状七号線の地下空間を最大限活用した、地下一層、収容台数7,100台、面積7,700㎡の駐輪場の計画を進めていた。しかし、この計画では幹線道路の一部通行止めにするなど、一般交通への影響が大きく、約5年の工期を要することが判明した。一方、近年、新たな技術や工法が開発されてきていることから、内部で検討委員会を立ち上げ、費用対効果の高い方法を目指し再検討を図った。その結果、幹線道路である環状七号線の車道部分を使用せず、駅南口の東西広場の地下に機械式駐輪施設を導入することとし、面積を少なく、収容台数を増やし、更に工期を大幅に短縮(実工期2年半)することができた。

事業位置図

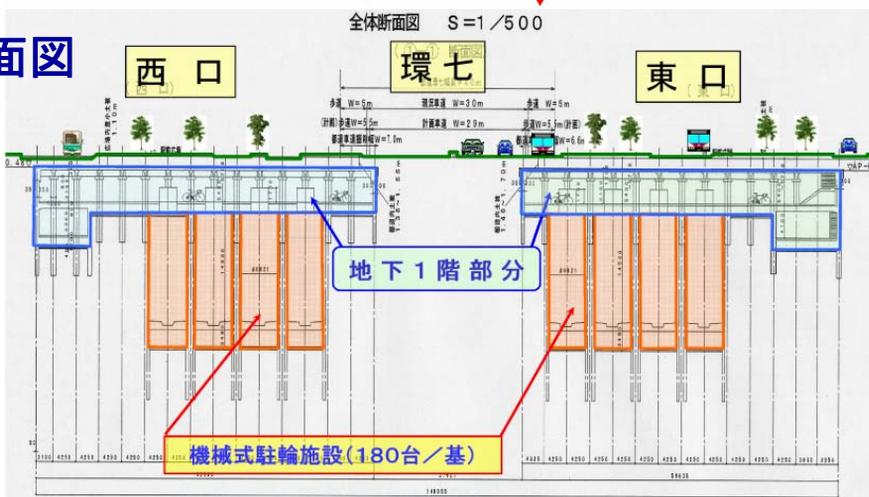


全体図(平面図・側面図)

平面図



側面図



葛西駅地下自転車駐輪場の整備効果アピール資料



○事業概要

事業名：葛西駅地下自転車駐輪場整備事業
路線名：葛西駅地下自転車駐輪場
事業箇所：江戸川区中葛西五丁目、東葛西六丁目
形式：地下一層機械式併用自走式
面積：5,600㎡
収容台数：9,400台
出入口：斜路付階段(オートスロープ付) 6箇所
総事業費：70.4億円
事業期間：平成16年～平成19年度

○放置自転車の調査結果

供用前 2,156台(平成13年調査)
供用後 272台(平成20年調査)

「整備効果」

- ・本事業の完成に合わせて、放置自転車の撤去効果、集積所業務の拡充、啓発活動の促進等の総合自転車対策を行うことによって、駅周辺の放置自転が大幅に減少した。
- ・既存の駅前広場の地下に駐輪場を整備することにより、駐輪場利用者の駅への利便性の向上に努めた。

「その他の事業効果」

- ・止水性、経済性に優れた「H型PC杭」と「プレストレス梁」の二次製品を採用することにより、現場施工に比較して、約1億1千円のコスト縮減及び約1年間の工事期間の短縮が図れた。
- ・機械式駐輪施設はセンサーによる入出庫の適正識別、また、自転車に添付したICタグによる登録識別を瞬時に行えるシステムを導入した。1基あたり1分間2台という短時間での格納が可能により利用者の利便性が向上した。

事業前写真



平成16年4月撮影



平成16年4月撮影



平成16年4月撮影

事業後写真

葛西駅地下自転車駐車場（完成図）



平成20年9月撮影



平成20年9月撮影



平成20年9月撮影